



平成 23 年 11 月 15 日
独立行政法人国立科学博物館

国際シンポジウム 「旧石器時代のアジアにおける現代人的行動の出現と多様性」 の開催について

独立行政法人国立科学博物館（館長：近藤 信司）は、平成 23 年 11 月 29 日（火）～12 月 1 日（木）に標記国際シンポジウムを開催します。

ホモ・サピエンス（現生人類）のアフリカ起源説が定説化した現在、その世界への拡散過程と“現代人的な行動能力”の進化過程が問われています。そのために、旧石器時代のホモ・サピエンスの遺跡調査が、世界各地で活発に行われるようになりました。18ヶ国から専門家が集う本シンポジウムは、この新しいテーマについてアジア地域に焦点を絞って議論する、初めての大規模国際会議となります。

特に日本列島の後期旧石器文化については、世界最古の狩猟用落とし穴や特殊な石器、古くからの海洋渡航技術など、興味深い要素が多数ありますが、これまで海外ではほとんど知られていませんでした。本シンポジウムはこうした要素を海外に広く発信し、かつホモ・サピエンスのグローバルな拡散史の中で、これらをどう位置づけるかを検討する場ともなるでしょう（別紙 1・2 参照）。

シンポジウムに合わせて、この分野の世界的権威の研究者を招いての一般講演会（11/26：申込み×切済）や、日本の重要遺跡について紹介する遺跡見学会（11/28：専門家向け）も企画されています。これらのイベントについても取材可能です。なお本シンポジウムは、DUAL SYMPOSIA と題する複合シンポジウム（下記公式 HP 参照）の一環として開催されます。

取材をご希望の方は E メールにて、貴社名・所属部署・氏名・連絡先・取材を希望するイベント・取材を希望する日時等を、下記担当者へお知らせください。

よろしくお願い申し上げます。

シンポジウム会場・ウェブサイト

（独）国立科学博物館 〒110-8718 東京都台東区上野公園 7-20

<http://www.kahaku.go.jp/english/event/2011/06sympo/> （英語）

<http://www.kahaku.go.jp/event/2011/06sympo/> （日本語）

本件についての問合せ

人類研究部 海部陽介

TEL：029-851-5159（代表） 029-853-8184（直通）

E-mail:kaifu@kahaku.go.jp

別紙1： 日本列島の独特な後期旧石器文化



提供：東京大学・沖縄県立博物館美術館

東部アジアで最も完全なホモ・サピエンス化石



所蔵：長野県立歴史館

世界最古級の磨製石斧

世界最古級の細石刃

世界最古の狩猟用落とし穴

黒曜石の海上運搬



古い海洋渡航技術



国立科学博物館常設展示

国立科学博物館常設展示

国際シンポジウム「旧石器時代のアジアにおける現代人的行動の出現と多様性」 開催スケジュール

11月26日（土）

一般公開講演会

13:00 開場／13:30～16:30 日本語逐次通訳付き

- ・ ポール・メラーズ教授（ケンブリッジ大学）
「現代人的行動の起源：考古学的証拠と行動学的解釈」
 - ・ ミハイル・V・シュンコフ教授（ロシア科学アカデミーシベリア支部・考古学民族誌学研究所）
「人類の起源とユーラシア大陸における人類居住 - 解剖学的現代人の形成」
- ※ 終了後に別室にてプレス向け質問時間を設けます。

11月27日（日）

アジア旧石器学会年会

11月28日（月）

エクスカージョン 静岡県富士山周辺、旧石器時代遺跡の見学（詳細はお問い合わせください）

11月29日（火）～12月1日（木）

国際シンポジウム「旧石器時代のアジアにおける現代人的行動の出現と多様性」

9:00～18:00（昼食休憩 13:00～14:00）

セッション（口頭発表と討論）

- ・ 『拡散と移住』（29日）
- ・ 『北・東アジア』（30日）
- ・ 『南・東南アジア』『ウオレシア・オセアニア』（1日）

※ 発表言語は英語。通訳はありません。